

社会 第4学年 自然災害にそなえるまちづくり 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「災害から命を守るため、だれがどのように協力しているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。(3)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：三重県内で起きた災害の記録と自治体の防災資料を比べ、情報を出す人、避難を支える人、救助する人の役割を矢印でつなぐ。避難所の場所だけでなく情報が届く経路や支援を必要とする人への対応を調べる。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(3)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：自分が気を付ければ十分という考えには、道路や避難所の整備、情報発信など個人では担えない働きを対応させる。地域全体の協力を調べてから自分の備えを選ぶ 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(3)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。住民や関係機関の協力を関連図にする活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：被災体験の発表を強制しない。家庭の避難先や個人情報とは公開せず、現地調査は学校の安全計画に従う 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(3)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：三重県内で起きた災害の記録と自治体の防災資料を比べ、情報を出す人、避難を支える人、救助する人の役割を矢印でつなぐ。避難所の場所だけでなく情報が届く経路や支援を必要とする人への対応を調べる。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全10時間は教育出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「災害から命を守るため、だれがどのように協力しているだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「災害から命を守るため、だれがどのように協力しているだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。学習問題への説明を修正する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

